

生命地域妙高 ゼロカーボン推進宣言

気候変動をはじめとする地球温暖化の影響は、世界で深刻化しており、「生命地域の創造」をまちづくりの基本理念に掲げる本市においても、台風による豪雨災害や記録的な暖冬少雪を引き起こし、市民生活や地域経済へ深刻な影響を及ぼしています。

また、絶滅危惧種ライチョウの国内最北限の生息地となる火打山においても、その生息環境が悪化するなど、国立公園 妙高の自然環境に対する脅威になっています。

地球温暖化対策は、世界がひとつとなり同じ目標に向かって取り組むことが重要であり、2015年に合意されたパリ協定において、「産業革命前からの世界平均気温上昇を2℃未満とする」目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までにCO₂の実質排出量をゼロにする必要がある」ことが示されました。今まさに、我々一人ひとりが地球規模の問題を地域レベルでも捉え、周辺自治体とともに地球温暖化対策に取り組むことが求められています。

本市は、このような危機的状況に正面から向き合い、人・自然・全ての生命が輝く「生命地域妙高」を次代に引き継いでいくため、SDGs施策の柱として、2050年までに「CO₂排出量実質ゼロ」を目指すことを宣言します。

- 1 世界から愛される妙高を目指し、全ての生命の源となる水資源の保全を図ります。
- 2 CO₂削減に向けた地球温暖化対策に取り組み、持続可能なまちづくりを進めます。
- 3 地域の特性を活かした再生可能エネルギーの自給率向上に努めます。
- 4 プラスチックスマートを推進し、環境負荷を軽減する生活スタイルの変革に取り組みます。
- 5 ライチョウや高山植物をはじめとする貴重な自然資源を守り、次代に継承します。

令和2年6月5日

妙高市長

